



Serial number 327

第3話

週刊 タバコの正体

「タバコの煙は100%有害物質」と言えるほどたくさんの毒が含まれています。いったいどれくらい含まれているかと言うと、「化学物質が4000種類、そのうち有害物質は200種類以上、またそのうち発ガン物質が60種類以上」だと言われています。通常の食品には、その原材料や添加物が詳しく書かれていますが、タバコにはこれほどの化学物質が含まれている事は明記されていません。

ニコチン依存症になってしまった人は、後にこんな事実を知っても吸い込まずにいられないのですから、本当にかわいそうです。一方、この事実を知っている非喫煙者は、喫煙者のタバコから漂う煙を無理やり吸わされたくないのは当然です。つまり“受動喫煙”がない世の中にしていかなければいけませんよね。

ところで、“受動喫煙”は国際的に使われる英語では、“Secondhand Smoke”(セカンドハンドスモーク)と呼ばれています。“2番目の煙”と表現されているのですが、じつは“3番目の煙”(サードハンドスモーク)というのも存在しています。

喫煙者が吐き出す煙や、タバコの中から立ち上る4000種類もの化学物質が含まれているタバコの煙は空気中を漂い、かなり広い範囲に拡散します。その証拠に、白い煙は見えなくてもタバコのニオイがする事ってよくありますよね。相当遠くでタバコを吸っていても、ニオイは届いてきます。

そうかと思えば、誰もいない屋内なのにタバコのニオイがする時もありますよね。「さては、誰かタバコを吸っていたな」と感じるでしょう。じつは、これが“3番目の煙”(サードハンドスモーク)なのです。

煙は拡散した後、その場所にある色んな物の表面やすき間にしみ込みます。そして、その粒子はすごく小さいので、かなり奥まで入り込んでしまい取り除くことができなくなります。すると、煙の姿は見えなくてもニオイだけが、ずっと残ってしまうのです。こうなると、その場所にいるだけでニオイを感じるので、微量でもタバコの成分が鼻から入っているとと言えます。だから、サードハンドスモークの事を日本語では“残留受動喫煙”と呼んでいます。

日常的に喫煙している部屋はこんな状況になっていますから、そこにいてだけで残留受動喫煙を受けているのです。いかがでしょうか。誰もいないから遠慮なくタバコを吸ってもいいというわけではないですよ。

タバコは、生活している場所も汚してしまう事をわかっておきましょう。

産業デザイン科 奥田 恭久